断景（だんけい）

視覚を制限し、意識を研ぎ澄ます

「和」の空間は、常に自然との調和を意識しながらも、その関係性を巧みに操作することで、より深い精神性を育んできた。

借景が、風景を取り込み、広がりを生む手法であるならば、『断景』はあえて視界を制限し、内なる意識を研ぎ澄ますための手法である。

現代社会において、私たちの視覚は絶え間なく情報に晒されている。都市の喧騒、デジタルスクリーン、広告——これらは無意識のうちに視界へと流れ込み、思考を散漫にさせる。

こうした過剰な視覚情報を意図的に断ち切り、限定された世界の中に「深み」と「静寂」を生み出す。

『断景』の空間は、現代における「和」の本質を問い直し、次世代の「和の精神」が芽生える空間の一つとなる。